

中3 批評文を書こう 「観察・分析して論じよう」

研究主題 「確かな国語力を育むための国語教育の在り方」

一豊かな言語感覚を磨くための実践や書くことの指導を通してー

日立市立日高中学校

有村 和修

1 はじめに

学習指導要領の国語科の目標には「国語を適切に表現し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる」とある。また、言語感覚を豊かにすることについて、「言語感覚とは、言葉の使い方の正誤・適否・美醜などについての感覚である」と述べられている。現在の国語教育では、言語に対する知的な認識を深めるだけではなく、言語に対する感覚を豊かなものにしていくことが求められている。さらに「多様な場面や状況での学習や積み重ねが必要である」とも述べられている。

また、3学年ではこれまで「書くことに」おける学習で、複数の候補を検討し、そのうちの一つを選択して根拠をもとに主張する力が身に付いてきた。しかし、生徒たちが根拠としたものに、「おもしろい」「すごい」など直観的な言葉が入っており、説得力があると感じられるものがあまりみられなかった。これらのことから対象を詳しく調べ、根拠をより具体的にし、説得力を高めるような力の育成が必要と考えた。さらに、直観的な言葉をより具体的なものしていくためには、学習指導要領解説にもあるように、国語科の学習を学校教育全体に関連させていく工夫も大切だとも考え、本主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) 国語科の枠を越えて、生徒の生活経験に根差した言語に対する感覚を豊かなものにしていく機会を与えれば、一人一人の生徒の生活や言語活動を充実させ、言語感覚の育成につながるのではないかな。
- (2) 生徒たちの身近な観察対象を準備し、批評文を書く活動を行えば、学習意欲を高めることができ、直観的な言葉だけでなく具体的な言葉で根拠をより探することができるのではないかな。

3 実践事例

- (1) 3学年の取り組み

①書き初め大会

新校舎の特徴を生かし、多目的スペースで書き初め大会を行った。ここで書く言葉は「今年1年の座右の銘を決めよう」というテーマのもとに生徒たちが自主的に調べてくるものとなっている。

資料1 書き初め大会の様子



資料2 学年での記念撮影



② 絆群唱

修学旅行で奈良の東福寺「五十二段」と呼ばれる場所を訪れた。興福寺と 猿沢池の間にある石段で奈良の人々に親しまれている地である。その地で「絆群唱」として国語科と連携して行った。詩は谷川俊太郎の「生きる」・宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」である。どちらもメッセージ性をもっている詩であり、言語感覚を豊かにする教材として活用することができた。



資料3 五十二段での絆群唱

【生徒の感想一部抜粋】

- ・新年を迎えて、一番に行う行事でとても思い出になった。座右の銘の言葉を今年1年大切にしていきたい。(男子生徒)
- ・国語の書写の時間と違って皆で楽しみながらやることができた。もっとちゃんとした言葉を選んでくれば良かったと思う。(男子生徒)
- ・修学旅行で一番感動したのが絆群唱でした。暑かったけど何度も練習してたから気持ちを込めて言えました。(女子生徒)
- ・雨にも負けずを群唱したことが一番思い出に残った。最初は恥ずかしかったけど、よい思い出になりました。(女子生徒)

(2) 授業実践

1 単元名 高校パンフレットの表紙について批評しよう

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として「好きなパンフレットの表紙を選び紹介する」ことを位置づけた。本単元でねらう「社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めることとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること」(B 書くことア)を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

3 単元について

(1) 生徒観

本生徒はこれまでに、根拠を明確に示して自分の意見を書いたり、自分の立場を明確にして分かりやすい構成で意見文を書いたりする能力を育成するために、「長所や短所を比較し、根拠を見つけ出そう」や「分かりやすい意見文を作ろう」といった学習を行ってきた。そこでは、複数の候補を検討し、そのうちの一つを選択して根拠をもとに主張する力が身に付いてきた。しかし、生徒たちが根拠としたものに、「おもしろい」「すごい」など直観的な言葉が入っており、説得力があると感じられるものがあまりみられなかった。そこで対象を詳しく調べ、根拠をより具体的にし、説得力を高めるような力の育成が必要と考えた。

(2) 教材観

本教材は、観察・分析という作業を重視したものとなっている。批評の対象をじっくりと観察して特徴を把握し、それらの意味や効果を考えることで「すごい」「おもしろい」といった直観的な印象ではない根拠を導かせる教材である。この教材での活動を通して、対象を詳しく調べ、根拠をより具体的にし、説得力を高めるような意見文の作成をしていくものである。

(3) 指導観

本単元では、「好きなパンフレットの表紙を選び、紹介する」という活動を目的として取り組んでいく。そこで、中学3年生にとって身近な高校案内のパンフレットを批評の対象とする。そうすることで社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるという活動につながる。また、批評の観点をグループごとに設定し検討する活動や、批評文の構成を工夫しながら説得力のある文章を書く力を育成していきたい。

4 単元の目標

- 批評の対象について、観察・分析したり比較したりして、自分なりの判断を下そうとしている。
(関心・意欲・態度)
- 論理の展開を工夫して、資料を参考に説得力のある批評文を書くことができる。(書くこと)
- 書いた批評文を読み合って評価し、ものの見方や考え方を深めることができる。(書くこと)
- 批評文について、これまでに学習した漢字を文章の中で使い慣れることができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価基準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・自分の選んだ表紙の特徴を、観察・分析し、相手に伝わる批評文を書こうとしている。	・論理の展開を工夫し、説得力のある批評文を書いている。 ・批評文を読み合い、ものの見方や考え方を深めている。	・学習した漢字を文章の中で使い批評文を書くことができる。

6 単元の指導計画（5時間扱い）

主 な 学 習 活 動	主 な 評 価
1 パンフレットの目的を捉え、「好きなパンフレットの表紙を選び紹介しよう」という課題を設定し、「はじめの一步」に取り組む。	・高校のパンフレットの目的を考え、ロゴマークの比較をし、それぞれの特徴を書き出そうとする。 (関心・意欲・態度)
2 批評文の学習の流れを確かめた上で、観察・分析をする手順を学び、それぞれの特徴を書き出す。	・対象の特徴を観察し、表現効果や作り手の意図を分析することができる。 (書くこと)
3 対象を比較し、判断を下す手順を確認し、比較の観点を決め、評価する。	・観点を決めて、比較し自分なりの判断を下すことができる。 (書くこと)
4 評価を参考に説得力のある批評文を書く。	・根拠を具体的に記述したり、結論が明快に伝わるように構成を工夫したりすることができる。 (書くこと) ・学習した漢字を文章の中で使い批評文を書くことができる。 (言語についての知識・理解・技能)
5 書いた批評文を互いに読み合って評価する。	・批評文を読み合って論理の展開の仕方や、表現の工夫を評価することができる。 (書くこと)

7 本時の学習

(1) 目 標

- ・根拠を具体的に記述し、結論が明快に伝わるように構成を工夫することができる。(書くこと)
- ・学習した漢字を文章の中で使い批評文を書くことができる。
(言語についての知識・理解・技能)

(2) 準備・資料

- ・ワークシート ・原稿用紙 ・高校パンフレットの表紙

(3) 展 開

(○は特に支援を要する生徒へのはたらきかけ)

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
1 本時の学習課題をつかむ。 評価したワークシートを参考に説得力のある批評文を書こう。 ・各班の比較する観点を発表する。 中学3年生が最も興味をもつ表紙は? 保護者が最も興味をもつ表紙は? メッセージ性がある表紙は? デザイン性がある表紙は? 2 批評文を書くときの注意点を確認する。	・高校案内のパンフレットを提示することを通して、学習の関心を高めて本時の学習に入っていけるようにする。 ・机を前時の小グループにし活動をしやすいようにする。 ・前時の時間に決まった内容を代表者が発表できるようにする。 ・参考資料をそれぞれの班で取りにくるように助言する。 ・教科書 p143「言葉の力」を開き全体で確認する

- ・自分の判断の根拠は、できるだけ具体的に示す。
- ・対象のうち、最も優れていると思ったものだけでなく、他のものについても言及する。
- ・必要に応じて参考資料の一部を引用してもよい。

3 批評文メモにチェックをもらう。

【選んだ高校】

- ・私が選んだ高校は〇〇高校です。

【根拠】

- ①「どこにだって行ける 何にだってなれる」という中学生に対してのメッセージがあるから。
- ②表紙にヨットと青い空が写っていて、さわやかなイメージを浮かばせるから。

【他の高校】

- ・英語のメッセージがあるが何を伝えたいのかが、はっきりしない。
- ・校舎や制服などの特徴は分かるが、メッセージ性が感じられない。

4 批評文メモをもとに批評文を書く。

【改善点】

- ・シンプルすぎるので、色遣いを華やかにした方がよい。
- ・表紙は学校との関係がわかりやすい校舎などを写した方がよい。

5 本時の学習を振り返り、次時の活動の見通しをもつ。

ようにする。

- ・特に根拠は観察のときに使用したワークシートから探すことができるように助言する。
- ・必ず、他のものについても根拠をみつけて評価をするように助言する。

- ・前時で、ワークシートにまとめた批評文メモにチェックをもらうように指示をする。

- ・チェックが終わった生徒が原稿用紙を自ら取りに行けるように、用紙が置いてある場所を指定しておくようにする。

- ・文章では学習した漢字をなるべく使用するようにする。

- ・構成は、自分が選んだ高校の根拠と、選ばなかった高校の根拠が分かるように段落を変えて批評文を書くように助言する。

○他の高校について選ばなかった根拠が思い浮かばない生徒には、自分が選んだ表紙の高校と何が違っているか共に考える。

○根拠が具体的でない生徒には、表紙に使われている言葉や、色、文字の形や大きさなど特徴から見つけられるように助言する。

- ・学習した漢字を文章の中で使い、批評文を書くことができるように文章をチェックする。
- ・A 評価の生徒には、他の高校について言及するときには、改善点も指摘するように助言する。

※根拠を具体的に記述し、結論が明快に伝わるように構成を工夫することができる。

【ワークシート・観察】（書くこと）

※学習した漢字を文章の中で使い批評文を書くことができる。

【ワークシート・観察】
（言語についての知識・理解・技能）

- ・本時を振り返らせ、次時の互いに評価する学習につなげる。

資料4 生徒の作品の一部

Good! 引用を入れてみよう!

も	以	の	校	は	そ	も	こ	の	い	ど	見	ぜ	細	ど	こ	く	私
分	上	あ	舎	い	こ	う	中	制	し	ん	れ	る	か	か	の	パ	は
か	の	も	も	ヨ	て	少	を	服	便	だ	に	よ	い	ら	ポ	ン	高
リ	こ	の	分	ッ	茨	し	見	ぐ	利	だ	対	う	エ	明	ス	フ	校
や	と	を	から	の	城	華	る	ら	ら	ら	し	な	天	る	タ	レ	の
す	か	入	た	絵	高	や	人	い	う	校	水	も	も	く	ッ	ッ	時
い	ら	れ	た	な	校	か	も	し		舎	城	だ	さ	楽	ト	は	候
だ	常	た	方	ど	は	に	少	か		か	高	と思	れ	し	は	常	が
う	盤	方	か	が	表	た	の	分		が	校	っ	て	そ	常	盤	表
	大	い	に	っ	紙	市	で	ら		か	は	中	校	う	大	学	紙
	学	と	少	て	が	い	は	た		か	表	を	風	な	学	高	から
	校	考	学	お	と	い	た	い		る	紙	し	が	色	校	た	く
	の	え	校	り	全	か	思	シ		は	見	て	伝	使	と	思	わ
	表	る	と	制	く	と	う	ン		と	も	表	わ	い	思	う	っ
	紙		関	服	関	。		プ		も	一	紙	て	な			て
	が		係	も	係			ル		良	目	を	お				
	取							す			見						
								ご			て						

20 x 20

太陽の光が雲がありません。の
所が太陽の光もないのに読んだ
しうことかあると思う。 by木村

メッセーじなどといふことを
書いてあると思うので、そのことを
書いてあると思う。 by

根拠は「デザイン」だから「デザイン」
の見た目はよくなく、デザインと文章との
つながりもよくないと思う。 by

書きにくい高校の「デザイン」
悪いところが多い。 by

【改善出来る点】

高校の良い所と良くない所が
しっかりある。てめえなかなかに
しゃべっていると思う。 by木村

目を丸く、パンフレットと目録と決めて
書いている所。
他の高校の表紙とくらべて
おもしろい。 by

他の高校の良い所もちゃんと書いて
あって「んだが...」という文章がたいてい
分かってきた。 by

その高校が「エッセイ」しているところ
ないかというところが多い。 by

【良い点】

自分の考え

自分の選んだ高校以外の事が選んだ高校に対し、
少し少なからず、増えれば良いと思った。
書かれているメッセーじにもふれば良いと思った。

書く【論証・説得】

観察・分析して論じよう

三年 二組 氏名(奥 友里乃)

【目標】

批評文を読み合い、互いに評価しよう。

【実践④】 お互いの批評文を読み、評価する。

【評価のポイント】

- ① 対象をしっかりと観察・分析しているか。
- ② 結論を明快に示しているか。
- ③ なぜ、そう結論したのかという根拠を具体的に述べているか。
- ④ 読者を引きつけるように表現を工夫しているか。

批評文を書く活動では、自分の選んだ表紙の根拠を具体的に書くことのできた生徒がみられた。構

成では、自分が選んだ高校の根拠と、選ばなかった高校の根拠が分かるように段落を変えて批評文を書くことができ伝わりやすい文章を意識した生徒が多くみられた。

4 研究の成果

- (1) 国語科の枠を越えて、座右の銘を用いた書き初め大会や、東福寺五十二段での群唱を通して、一人一人の生徒の生活や言語活動を充実させることができた。言葉に対して真剣に向かう様子や生徒の言葉からも言語感覚を養うことができたことがわかった。
- (2) 生徒たちの身近な出来事である受験を意識した教材の活用により、学習意欲が高まり、集中して授業を行うことができた。また比較対象の観察も丁寧に行うことができ、直観的な言葉だけでなく具体的な言葉で根拠を探ることができた。また、お互いに評価する学習では、友人の作品に触れることで、自分では気づけない言葉の使い方の間違いにも気づく様子が見られていた。

5 今後の課題

今回の書き初めや群唱による活動は学年単位でのものである。今後は学校全体で取り組むことのできる活動を国語科で新たに検討していきたい。

批評文に関しては、グループ単位での学習を行ったが、そのグループによっては容易に作業が進みすぎて時間が余ってしまった生徒たちがみられた。段階的な課題を用意して A 評価の生徒への対応をしっかりとしていきたい。また、中には自分の選ばなかった高校の改善方法まで意見の中に組み込むことのできた生徒もいたが、できなかった生徒が大半だったので対策を考えたい。